

静岡がんセンターで診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先へお問い合わせ下さい。

① 対象者	西暦 2015 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間に子宮頸癌 IB1 期または IIA1 期と診断され広汎子宮全摘出術を受けた方			
② 研究課題名	日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設の広汎子宮全摘出術の実態調査			
③ 実施予定期間	承認日 ~ 2021 年 12 月			
④ 実施機関	日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録参加施設			
⑤ 研究代表者	氏名	永瀬 智	所属	山形大学 産婦人科
⑥ 当院の研究代表者	氏名	角 暢浩	所属	静岡県立静岡がんセンター 婦人科
⑦ 使用する検体・データ	電子カルテ情報			
⑧ 目的	子宮頸がん IB1 期~II 期の標準治療は手術療法または放射線療法を中心とした治療であり、手術療法では広汎子宮全摘出術が標準の術式となります。従来、広汎子宮全摘出術は開腹手術として施行されてきましたが、低侵襲手術の腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術も先進医療として症例の蓄積が進み、安全性や効果が認められたために、平成 30 年 4 月より、日本でも腹腔鏡下手術が保険適用となりました。しかし平成 30 年 3 月にアメリカで開催された Society of Gynecological Oncology (SGO) において、低侵襲手術（腹腔鏡下手術/ロボット支援下手術）が、従来の開腹術式に比して治療成績が不良ではないかという発表がありました。日本で行われる手術は欧米と全く同じではないため、そのデータをそのまま当てはめることはできません。そこで日本における開腹手術と低侵襲手術（腹腔鏡下/ロボット支援下手術）の安全性や予後を比較するため、上記期間に広汎子宮全摘出術を施行された患者さんの情報を収集することを目的とします。			
⑨ 方法	対象者の方の診療録から必要な情報を事務局で収集します。			
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2019 年 1 月 8 日		
⑪ 公表	研究成果は学会や医学論文などに発表されることがあります。			
⑫ プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報を使用しません。			
⑬ 知的財産権	知的財産に関する権利（特許権等）は、静岡がんセンターに属します。			
⑭ 利益相反	本研究は企業との共同研究ではなく、企業からの資金提供もありません。			
⑮ 資料の参照	本研究について詳しく知りたい場合は、臨床研究事務局までご連絡ください。			
⑯ お問い合わせ	連絡先	臨床研究事務局	電話	055-989-5222（内線 3379）
	事務局にて、お問い合わせ内容をお伺いいたします。 後日、あらためて研究者より直接回答いたします。			

本研究のノウハウやアイデアに関する情報については公開できませんのでご了承下さい。